



図書館だより

ほくと 95号

八王子北高等学校図書館

2025年 12月

2025年も残りわずかとなりました。どんな一年になりましたか？

この時期になると「今年は特にはやい！」なんて、毎年言っている図書館です。

一年間、ありがとうございました。よいお年を！



展示：デビュー〇〇周年！作家特集



本をだせば必ず話題になる二人。

独特なストーリーで、鮮やかな伏線回収で魅了し続ける伊坂幸太郎。ミステリーなのにミステリーらしくない、が伊坂ワールドの特徴。

朝井リョウは平成生まれであり、若い世代からも支持が多く、現代社会の問題や特徴をとらえた重厚な作品に共感者続出。

今回はそんな唯一無二の作家お二人を展示コーナーにてご紹介！

25周年 伊坂幸太郎

『オーデュボンの祈り』 デビュー作



オーデュボンの祈り
伊坂幸太郎
あとの伊坂幸太郎、初文庫
伝説のデビュー作、新刊見参！

外とのかかわりを絶っている不思議な島で起こる、不思議な話。ファンタジー要素もあり、デビュー作にして強烈なインパクトある物語だが、最後は登場人物に共感したり、心うたれたり、腹が立ったり、なんだかとてもツボにはまる一冊。

散りばめられた様々な伏線をきれいに回収してくれるところも、さすが伊坂幸太郎です。

15周年 朝井リョウ

『桐島、部活やめるってよ』 デビュー作



第22回小説すばる新人賞受賞。
神木隆之介主演の映画も話題に。

バレーボーイのキャプテン、桐島が理由も告げずに部活をやめてしまう。17歳の高校生たちのリアルな心理描写やセリフに、若者も大人も心つかまれる。

閉塞的な環境で、自分の本音と向き合う青春群像劇。

『さよならジャバウォック』 25周年記念作



「ミステリーらしくない」といつも言われる為、王道ミステリーを書こうと取り組んだが、出来上がったままで王道とはかけ離れたという今作。

夫から暴力を受け、自分と息子を守るために夫を殺害してしまった量子。そこへ大学時代の後輩が訪れる「何か問題が起きていますよね？」驚きの結末は読んで確認してみて下さい。



「推し」をテーマに、推す者、推していた者、その世界を仕掛けている者、三人の様子が描かれます。

デビュー作から今作まで、人の複雑な心情や、社会問題を深く掘り下げ、テーマにしてきた著者。どこかドキッと当事者意識をもたされる作品の、今後も注目です。



新着図書紹介



『さらば！店長がバカすぎて』

早見和真著



『店長がバカすぎて』の最高の笑いと感動の第三弾。

本屋の意義について、「昨日まで自分が知らなかった世界と出会える唯一の場所だからです。そんなところって他にありますか？」

このセリフ最高です！図書館も同じであります。

『神に愛されていた』

木爾チレン著

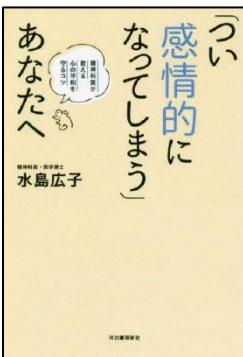


若く才能あふれる女性作家の牙理と天音。片や貧困から、片や病から抜け出して名声を手にし、互いの才能を認めながらも真反対に行き違う2人の天才の愛憎の物語。

共に小説を愛し、小説の神に愛されたいという願いの中で対局する二人、さてどんな結末が待っているのでしょうか。

『つい感情的になってしまうあなたへ』

水島広子著



ちょっとしたことでイライラ、ムカムカすることってありますよね。

つい感情的になってしまう！がなくなる7つの習慣があるそうです。

—雨穴—

日本のウェブライター、小説家、YouTuber。本名、素顔、地声などが非公開の覆面作家。

不動産ミステリー『変な家』は評判となり、実写映画化や漫画化された。

『変な地図』

雨穴著



『変な家』『変な絵』に続く「変なシリーズ」4作目で集大成。変なシリーズ探偵役・栗原のエピソード。

彼の祖母が正体不明の古地図を握りしめて、不審死をとげその地図には7体の妖怪が描かれていた。これはいったい何なのか？その謎を探る旅が始まっていく。

『涙の箱』

ハン・ガン著



ノーベル文学賞作家のハン・ガンがえがく大人の為の童話で涙をめぐる暖かな希望の物語。

主人公は涙ツボと呼ばれている一人の男の子と純粋な涙の粒を求めて旅するおじさんとの出会いから始まる。

自分の為に他者の為に、世界の為に流す涙、いろいろです

『暴走正義』

下村敦史著



暴走する正義をテーマにした短編集。暴露系、報道系などSNSにまつわる内容。

たとえばはじめは正義であったとしても、暴走して手に負えなくなったときそれは正義と言えるのだろうかと考えさせられます。

作家紹介コーナー

—木爾チレン—

日本の小説家。

中学生のときから小説を書き始める。きっかけは好きな男の子に16回振られたため、小説の中でその恋心を成就させようと思ったからという。

